

とうきょう すくわくプログラム活動報告書



施設番号	66-1319
施設名	たばた絆保育園・おうじ絆保育園(分園)
施設所在地	北区田端新町1-8-15-101
法人名	社会福祉法人絆友会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

園周辺の自然を探そう

<テーマの設定理由>

当園は園庭がないため、日頃から子どもたちは近隣の公園へ散歩に出かけることが多くあります。これまでは公園を遊び場として活用してきましたが、園周辺の公園にも様々な植物や昆虫、石や木の実など多くの自然物が存在していることに気づきました。

そこで、身近な公園にある自然物に触れる体験を通して、子どもたちが自然に対する興味や探求心を持ち、自ら発見し学ぶ姿勢を育ててほしいと考え、「園周辺の自然を探そう」というテーマを設定しました。

園庭がなくても身近な環境の中で自然体験ができること、そして五感を使った活動が子どもたちの成長にとって貴重な体験となることを重視しています。園児たちが日常の中で小さな発見や驚きを重ね、自然に親しみ、豊かな感性や主体的に考える力を育ててほしい——そんな願いを込めて、本テーマに取り組みました。

2. 活動スケジュール

合計7回（9月1回、10月1回、11月1回、1月1回、2月1回、3月1回）
2024年9月から2025年3月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

ビニール袋
タブレット
パソコン
スクリーン
プロジェクター
マイクスピーカー
ボード、ペン

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

おうじ絆保育園では、2024年9月から2025年3月まで月1回、醸造試験場跡地公園、馬場児童遊園、飛鳥山公園など地域の公園を活用し、「園周辺の自然を探そう」をテーマに活動しました。園庭がない環境を活かし、身近な自然に直接ふれあいながら、子どもたちの探求心や主体性を育むことを大切にしました。

活動では、幼児と乳児が一緒になって公園内を散策し、興味を持った植物や虫、木の実など様々な自然物を発見することから始めました。発見したものは、タブレットで撮影したり、特徴を言葉や絵で記録したりして、その場で感じた「なぜこんな色?」「どうしてここにいるのかな?」という不思議や疑問を大切にしました。

園に戻った後は、撮影した写真を使って図鑑やインターネットで調べたり、保育者や異年齢の友だち同士で意見や知識を共有したりして、さらに理解や興味を深めました。調べた内容や発見をプロジェクターで映し出し、みんなの前で発表する場も設けるなど、一人一人の「知りたい!」「伝えたい!」気持ちを引き出し、主体的な学びにつなげました。

3月には、元北区教育政策課の坂場さんを講師に招き、特別プログラムとして飛鳥山公園でウォークラリーを実施しました。子どもたちはチームごとに「木の幹の大きさを調べよう」「いろんな種類の野草を見つけて集めよう」などのミッションに挑戦し、異年齢の仲間と協力しながら公園内を探索しました。ミッションを通じて、普段気づかなかった自然物や季節の変化に目を向けるとともに、異年齢児の関わりやコミュニケーション、協調性も育まれました。活動の最後には、チームごとに発見や工夫を発表し、みんなで共有することで、自然への関心と探求する意欲がさらに広がりました。

このように、身近な自然環境とICT機器を組み合わせながら、子ども自身の探求心に寄り添い、「知る・調べる・伝える」を大切に活動を持続し、子どもたちの主体性や好奇心、自分で見つける楽しさを育むことができました。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

活動の中で、子どもたちは公園内の植物や虫に目を輝かせて近づき、「これは何だろう」とじっくり観察したり、「見て見て、こんなの見つけたよ」と互いに発見を伝えあう姿が見られました。年上の子が年下の友だちに「一緒に探そう」と声を掛けたり、見つけたものについて教えてあげる様子もあり、異年齢の関わりが自然に生まれていました。保育者は、子どもが興味を示したものの疑問に対して「どう思った?」「図鑑で調べてみる?」などと優しく声をかけ、一緒になって調べたり観察したりしていました。また、子どものペースや意欲を大切にしながら、安心して主体的に活動できるよう配慮していました。その結果、自分の発見を自信を持って発表したり、新たな興味を広げようとする姿が多く見られました。



5. 振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

子どもたちは自分の発見や疑問を自分の言葉で伝えることで、より深い学びや気づきを得ていることに改めて気づきました。また、タブレットやプロジェクターを活用することで、観察したことの共有や意見交換が活発になり、子ども同士の相互理解が促進されていました。一人ひとりの発見や感じたことがチームや全体の場に共有されることで、年齢を越えて新たな視点や発見が広がり、子ども同士の関係も深まっていました。さらに、保育者自身も子どもの新たな視点や発見に触れ、共に学び合う喜びや、今後の保育に生かすヒントを得ることができました。